

第三八軍司令部略歴表

年月日	概	要
昭二七 五 一三八	西貢に於て印度支那駐屯軍司令部として締成完結初代軍司令官 陸軍中将 町尻重基	開成式爾後軍司令部は西貢に位置す
一三八	當時の主要隷屬部隊 才二一師団主力は北部に一部は南部に位置し、南方才一	憲兵隊は西貢南方軍補給諸支廠を指揮下部隊に入らしむ
一八三	支那派遣軍の雷州半島作戦に策應	
一三〇	締成改正 同完結	
一三〇	新に独立混成才三四旅団を隷屬せしめられ諸兵団は四月下旬迄に中部印度支那地区に到着す	
一八	独立混成才七〇旅団を西貢附近に於て締成軍の隷下に入らしめらる	
二	支那派遣軍一号作戦に策應し才二一師団歩兵一聯隊を基幹とする部隊を以て南寧及梧州附近に向ひ進攻作戦す	
一一三三	陸軍中将 土橋勇逸 才二代軍司令官に補成せらる	
一一三〇	才三八軍司令部と林等変更	
二〇三	印度支那治安の確立及作戦準備及才三七師団及才二二師団を南寧方面より北都	

年月日	概	要
昭三 五三 二九	<p>印度支那に該用軍の指揮下に入りしめらる 軍主力を以て明等作戦を實施し印度支那地区を勘定し主要使用兵力、オニ一師 団オニ二師団オニ三師団オニ三七師団獨立混成オニ三四旅団、獨立混成オニ七〇旅団、オ ニ師団の一部、南才軍オニ一憲兵隊</p>	
七四六四 一一〇五	<p>軍司令部 主力河内に移駐、同指令所の西貢に オニ三七師団、オニ二師団は泰國へ獨立混成オニ七〇旅団は「ニライ」に夫々軍の 兼指揮下を脱し移動、オニ二師団及オニ五五師団は南部地区に於て軍の揮下に入り 戦力恢復</p>	
八八 八八	<p>停戦詔書発布 復員下令</p>	
九	<p>北緯一大度以北は支那軍、同以南は英軍の管理に属す當時の兵力配置 北緯一大度以北、軍司令部オニ一師団、獨立混成オニ三四旅団の主力 北緯一大度以内、オニ二師団、オニ五五師団</p>	
昭三	<p>北部地区部隊は主力を以て海防地区に一部を「ソーラン」附近に集結、軍司令 部は一〇月及至一一月「ドロン」に移駐 北部地区部隊海防より東移 主力、浦賀五月二日一部(軍)司令部「名古屋」に上陸 北緯一大度以北地区に於ける兵力 約 三万名</p>	

(2/9)

0230

	年 月 日
	概 死亡者 五四名 入院患者 三七名 生死不明者 二一名 要

(220)

0231